



## 公的職業訓練効果検証の報告について

令和7年11月12日

神奈川県労働局職業安定部訓練課



# 1. 公的職業訓練効果検証ワーキンググループについて

## 目 的

適切かつ効果的な職業訓練を実施していくため、個別の訓練コースについて訓練修了者や採用企業からのヒアリングも含め、訓練効果を把握・検証し、訓練カリキュラム等の改善を図る。

## 構成員

- ①神奈川県労働局      ②神奈川県産業労働局労働部産業人材課      ③横浜市中心職業訓練校  
④独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部

## 検証手法

令和7年度は介護分野の訓練コースの対象へのヒアリングを行い、その結果から訓練効果等を検証し、改善促進策（案）を作成する。

## 具体的な 進め方

- ① 神奈川県、横浜市、機構で実施した介護分野のコースから各1コースを選定。  
対象の3者（職業訓練実施機関、職業訓練修了者、職業訓練修了者採用企業）にヒアリング。
- ② ヒアリングの結果を踏まえ、介護分野における課題に対する対応策を整理し、改善促進策（案）を作成。
- ③ 第1回地域協議会に改善促進策（案）等検証結果を報告し、令和8年度地域職業訓練計画の策定に反映。

## ヒアリング 対象分野の 選定理由

介護分野の人手不足は依然として深刻な課題であり、職業訓練を通じた介護分野への人材輩出及び職場定着に向けてカリキュラムの課題等を把握し、どのように改善すべきかを検討するため、令和7年度は介護分野を対象とした。

## 2. ヒアリング実施状況について

ヒアリング実施時期

令和7年7月～8月

ヒアリング実施者

神奈川県地域職業能力開発促進協議会ワーキンググループ

ヒアリング先

- |               |      |
|---------------|------|
| ① 職業訓練実施機関    | 3 機関 |
| ② 職業訓練修了者     | 3 名  |
| ③ 職業訓練修了者採用企業 | 3 社  |

	A（訓練期間：6ヶ月）	B（訓練期間：3ヶ月）	C（訓練期間：2ヶ月）
訓練修了後に取得できる資格	介護福祉士実務者研修修了	介護職員初任者研修修了	介護職員初任者研修修了
訓練修了者 （年代、前職）	40代 事務職	30代 サービス関係職	40代 販売職
介護職を選んだきっかけ	介護職は1対1で関わり、人に喜びを与えられる仕事だから	母親が介護職だったことと、安定した収入を得たかったから	祖母の介護をきっかけに、仕事としてやってみようと思った
訓練受講のきっかけ	元々職業訓練のことは知っており、施設見学に行って決めた	自治体からの案内に職業訓練の記載があった	家族に職業訓練を受講した者がいた
雇用形態・採用職種	正社員・介護職（夜勤あり）	正社員・介護職（夜勤あり）	正社員・介護職（夜勤あり）
介護サービス（施設）の種類	特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	グループホーム

### 3. ヒアリング実施結果(訓練実施機関に対するヒアリング)

#### 訓練実施にあたって工夫している点

- ・カリキュラムについては自由度はほとんどない。介護福祉士実務者研修の修了には決められた450時間の受講が、介護職員初任者研修の修了には決められた130時間の受講が必要なため、校外実習などその他のカリキュラムを実施する余裕があまりない。しかし、決められた受講時間以外の少ない時間を、何にどう当てたら就職に役立つかを考えてカリキュラムを組んでいる。
- ・介護職は倫理観、人間性、人としての姿勢が大事なので、人の心に触れあう尊さを学ぶ授業をカリキュラムに入れている。
- ・受講生の年齢層は幅広く、他のコースよりも高め。前職も多種多様。前職では指示を出すだけだった人も多いが、第2の人生は人の役に立ちたいという理由で受講する人が多い。そういう気持ちを大切に、心を育てることを意識したコース運営を行っている。

#### キャリアコンサルティングの状況

- ・学べば学ぶほどいろいろな情報が入ってきて迷いが生じてしまう受講生がいる。また、職場実習や見学に行き、自分の目指す方向性が変わる受講生もいる。そのため、キャリアコンサルティングには重点を置いており、受講生の意識の変化に着目しながら実施している。

#### 労働局・ハローワークへの要望

- ・職業訓練は就職を目指すためのものであるのに、受講終了後すぐの就職を考えていない受講生がいる。また、介護職に対する理解が十分でない受講生も見受けられる。ハローワークでは、職業訓練の目的の伝達をしっかりと行うとともに、介護職の責任の大きさや勤務形態などについても説明してほしい。

## 4. ヒアリング実施結果(訓練修了者に対するヒアリング)

### 就職後、役に立ったカリキュラム等

- ・ 座学を通して介護職の基本的な知識・理解は必須だと思う。介護保険制度、認知症の理解、A D L（日常生活動作）など、訓練で学んだ土台があるからこそ、現場実践に活かすことが可能。
- ・ 実技を多く学べば学ぶほど、現場に出たときの不安が払拭できる。とにかく実技。そのため、もっと実技の時間があるとよかった。
- ・ 認知症の授業は就職後にとても役に立っている。そのため、もう少し深く学びたかった。
- ・ グループワークを通じた意見交換や発見は、チームワークが必要不可欠の介護職には就くにはとてもありがたかった。

### 就職後に感じた、訓練で学んでおくべきだったスキル

- ・ 職場実習や職場見学は、もっといろんな種類の施設に行ってみたかった。より多くの種類の施設を見たり体験することによって、就職活動がよりスムーズに進められると思う。
- ・ 薬の名称や効果について、もう少し知識を身に付けておくよかったと感じている。
- ・ 「人権と尊厳」についての授業があったが、受講中はあまり理解しようとしていなかった。仕事を始めてみて、「こういうことだったのか」と結びついた。もっと真剣に受講しておけばよかった。

### その他の意見

- ・ 受講したのは「介護職員初任者研修科」だったが、タイミングが合えば「介護福祉士実務者研修」を修了できるコースを受講したかった。実務者研修を修了できるコースがもっとあったらいい。
- ・ 介護施設においてもＩＣＴ化・ＤＸ化への取り組みが進んでおり、介護記録は職員に対して配付されるタブレットを用いての入力が主流になっている。そのため、ＰＣ操作に関する授業はあまり必要でないかもしれない。

## 5-1. ヒアリング実施結果(訓練修了者採用企業に対するヒアリング)

### 職業訓練に求めること、カリキュラムに関する要望等

- ・ 接遇やコミュニケーションは介護職では必須なので、それらに関する授業を増やしてほしい。
- ・ 利用者への介助に関する実習（排泄や移乗など）を増やしてほしい。
- ・ 少しでも介護現場の実情を理解・体験できるよう、施設実習や施設見学の時間を増やしてほしい。文字や文章上で知っているのとは大きく異なる。
- ・ 尊厳や倫理に関する授業を増やしてもらいたい。施設利用者への虐待などの事件がたびたび起きているが、そういったものをなくすためにも、授業でしっかり教えてもらいたい。

### 訓練であまり必要ではないと思われるカリキュラム

- ・ 基本的に1人1台配付したタブレットを用いて業務を行っているので、PC入力を行うことはない。今ほとんどの人がスマートフォンを持っており、タブレットの操作には慣れているので、PCの操作について学習していなくても特に問題はない。
- ・ 介護ソフトを導入しており、報告書はある程度決められた定型文で簡単に作成できるし、PCスキルは意欲さえあれば入職後に習得することができるので、訓練のカリキュラムにPCの操作が必須とは言い難い。

### 訓練修了者に期待していること

- ・ 採用に際し最も重視するのは人柄であるが、職業訓練修了者は志望動機がしっかりしているし、数カ月間しっかり介護に向き合ってきているので、心構えが全然違う。挨拶をする、時間を守る、急に休まないといったことも訓練で学んできている。また、基本的に社会人経験があるため、コミュニケーションスキルがある人が多い。そういった点で、採用するメリットは大いにある。
- ・ 介護福祉士実務者研修修了者は、実務経験を3年積みれば介護福祉士の資格が取れるようになる。この点は大きい。

## 5-2. ヒアリング実施結果(訓練修了者採用企業に対するヒアリング)

### ハローワーク、訓練実施施設に対する要望

- ・介護職は生半可な職業ではない。精神面が強くないとできる仕事ではない。特養などでは変則勤務があるため、体調管理など、自分でいかにコントロールできるかが大事。そういったことを訓練でしっかり伝えてほしい。
- ・介護職も昔とは大きく変化してきている。「昔の介護」のイメージで入職してきてしまう人がいるので、「今の介護」をしっかり教えてほしい。
  - ・「昔の介護」はどちらかというと「介護施設の都合に合わせて利用者に行動してもらう」というもの。  
(例) 決められた時間内で食事を摂ってもらう、決められた時間に入浴してもらうというもの。
  - ・「今の介護」は人権、自主性などを重視し、利用者の要望を聴き、その要望に介護施設が合わせるというもの。

### ICT化・DX化について

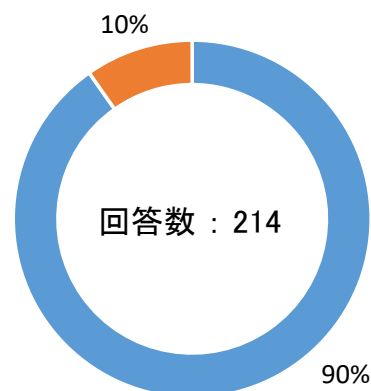
- ・介護記録は元々PCを使用していたが、効率化のためにタブレットを使ってその場で入力できるようにしている。
- ・スタッフにインカムを貸与して情報共有できるようにしている。例えば、体の大きい人、体重の重い人の介助を行う場合はケガに繋がる可能性が高いので、インカムで連絡を取り合い、フォローに入る体制が作れている。インカムがあることで、フォローに入る時間の短縮にもつながっている。
- ・Bluetooth通信が可能な体温計、デジタル血圧計、パルオキシメーターを導入し、自動で記録できるようにしている。これにより、作業時間の大幅な短縮ができています。人手不足に対処するために、もっといろいろなところでICT化していかないといけない。
- ・生体センサーの導入も順次行っている。眠りの質や眠れているかどうかを自動で判断することができるので、眠れていない人がいた場合、レクリエーションなど日中の活動を増やすといった対応を行うことができる。

## 6-1. アンケート調査結果

### 介護職に就いている人、介護職に就くことを考えている人へのアンケート調査

介護関連の講座・訓練受講のため、神奈川キャリア形成・リスキリング支援センター及び相談コーナーでキャリアコンサルティングを受けた人を実施したアンケート調査

#### 1. 就業状況



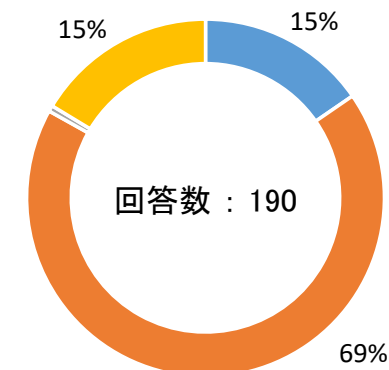
● 在職中	193
● 離職中	21

#### 2. 受講する訓練の種類



● 教育訓練給付対象講座	212
● 公共職業訓練	1
● 求職者支援訓練	0
● その他	1

#### 3. 受講する訓練の内容



● 介護職員初任者研修	29
● 介護福祉士実務者研修	131
● 介護福祉士	1
● その他	29

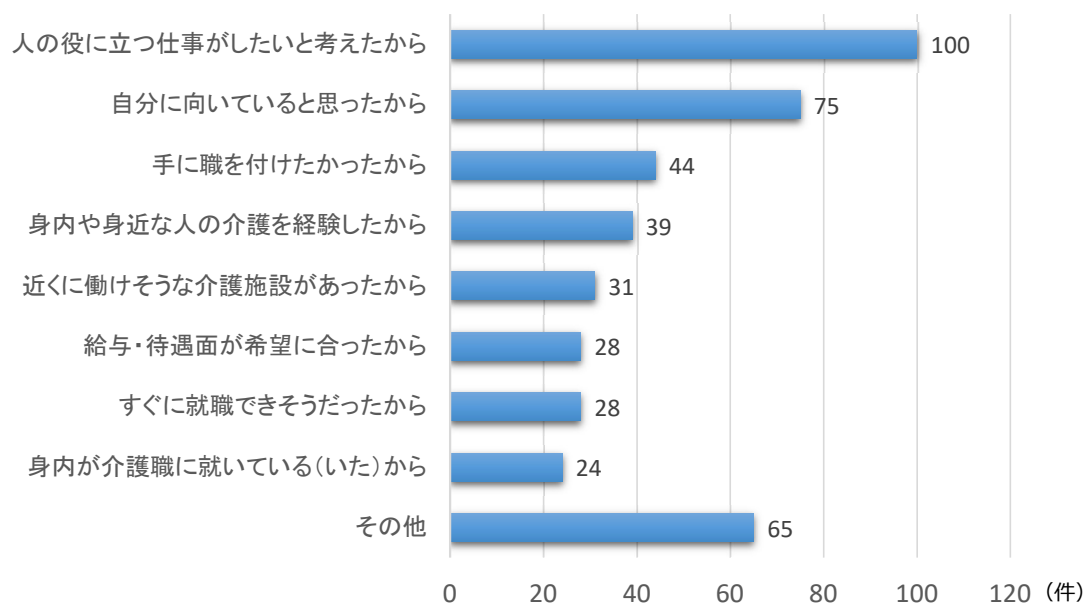


## 6-2. アンケート調査結果

### 介護職に就いている人、介護職に就くことを考えている人へのアンケート調査

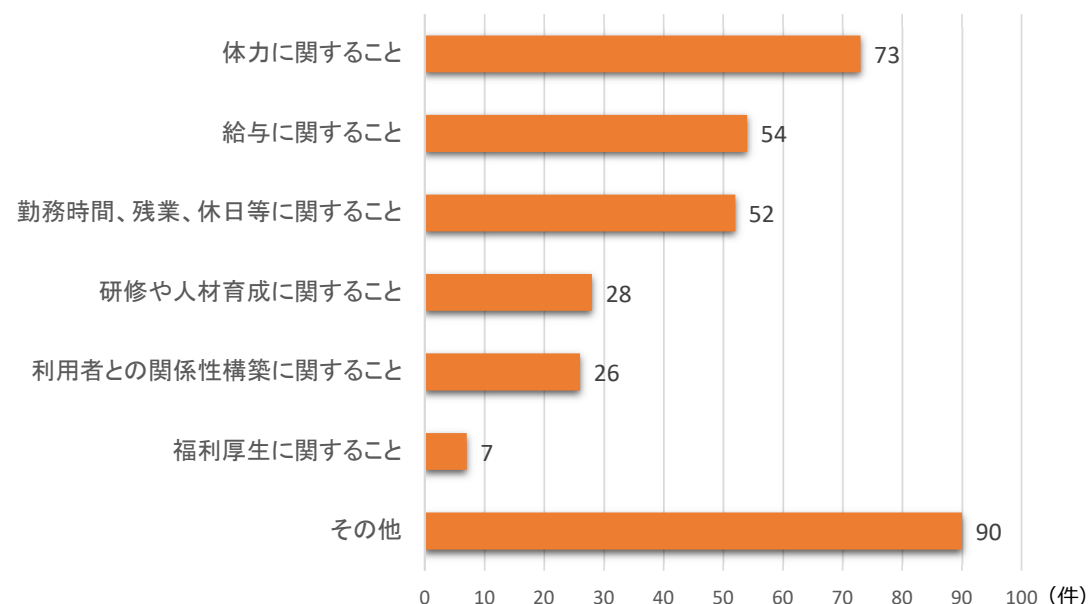
介護関連の講座・訓練受講のため、神奈川キャリア形成・リスキリング支援センター及び相談コーナーでキャリアコンサルティングを受けた人を実施したアンケート調査

#### 4. 介護職を希望した理由、きっかけ（複数回答可）



回答者数：214名

#### 5. 介護職に就くことに対する心配事（複数回答可）



回答者数：214名

## 7. 改善促進策

### 介護分野の公的職業訓練を効果的に運用するための方策

#### 1 就職後のミスマッチを防ぐカリキュラム作り

- ・ 実技の授業、職場実習、職場見学の充実
- ・ 介護職に対する心構えや倫理といった授業の設定
- ・ キャリアコンサルティングの充実

#### 2 ハローワークでの効果的な職業相談

- ・ 職業訓練受講のメリットをしっかりと伝える
- ・ 介護関係業務の説明にとどまらず、すでに介護職に就いている人たちが介護職を志した理由などを紹介し、共感を通じて介護職への意欲を喚起する

#### 3 ニーズに合った訓練コースの用意

- ・ 介護職員初任者研修修了を目的としたコースは、様々なニーズに応じた期間の異なるコースを設定
- ・ 介護福祉士実務者研修修了を目的としたコースの増設を検討

#### 4 介護職のイメージアップ・魅力発信

##### 発信方法／ハローワーク・労働局等による発信

- ・ 職業訓練を修了し介護職に就いた人の事例共有
- ・ 介護施設担当者による講話
- ・ 職場見学や体験イベントの開催
- ・ SNS、ホームページ等を活用した情報の発信

##### 発信すべき内容／介護職をめぐる環境改善の動向

不安要素	改善状況等
・ 体力	・ チーム対応の充実、フォロー体制の構築による体力的負担が軽減
・ 給与	・ 給与額は改善の流れ
・ 勤務条件・労働環境	・ ICT化等による業務効率化が進展 ・ 介護施設が多く通いやすい就業場所を選べる
・ キャリアアップ	・ キャリアアップ支援が手厚い介護施設は多い